

新人登山大会中部ブロック予選会 予報（井原山～雷山山系）

福岡県高体連中部ブロック登山専門部

1. 大会山域について

糸島半島は、弥生時代より大陸からの新文化を受容する玄関口としての役割を担っており、中国の歴史書「魏志倭人伝」に伊都国で記述されています。特に、国指定史跡の平原（ひらばる）遺跡から日本最大の銅鏡が出土している。

明治29年に、怡土（いと）と志摩（しま）の2つの郡が合併し、「糸島郡」が誕生し、昭和40年に複数の町と村から形成されていたのが前原町、二丈町、志摩町となり3つの町となった。その後、平成4年には前原町が市制を施行し前原市になり、平成22年に、前原市、二丈町、志摩町が合併し「糸島市」が誕生した。

大会山域である雷山の中腹には742年に開山された千如寺（せんによじ）があり、その中にある大悲王院（だいひおういん）は1752年に黒田継高（つぐたか）公が建立した建物である。境内には県天然記念物である樹齢約400年の大カエデがある。この千如寺からさらに登ったところに雷（いかづち）神社があり、ここには県指定天然記念物である樹齢900年のイチョウ、250年のモミの木、400年以上のイロハカエデ、1000年を越す観音杉がある。

井原（いώρα）山は脊振山脈で脊振山に次ぐ第2位の標高で982.4mある。ふもとには幕営地である瑞梅寺山の家、1976年に管理開始された瑞梅寺ダム、さらに上に登っていくと全長1600m以上の水無鍾乳洞がありこの付近にフクロウの形をしているこうぞう岩がある。この下から湧水がでていいる。この辺りは7月中旬からオオキツネノカミソリが非常に有名である。

登山山域の植生はコバノミツバツツジ・クマザサ・ブナ・ヤマボウシがあり、中腹にはスギやヒノキが植林されている。

脊振山系は東側から基山（きざん）から西側は十坊山（とんぼやま）まで続く福岡県と佐賀県の境界となっており東西に50km以上と非常に長い距離の山系となる。最高峰である脊振山（1055m）をはじめ今回の山域である井原山・雷山の他に金山（かなやま）・羽金山（はがねやま）は標高900mを越えている。

2. 荒天対策について

(1) 荒天対策は次のような場合に実施する。

①風雨が激しく全面的に登山行動や幕営が困難なとき。

②①に準ずる天候（雷の異常発生、河川の増水など）で稜線や沢筋での行動が困難なとき。

③台風の接近や集中豪雨のために、入下山口への経路が通行不能になったとき、または、そのおそれのあるとき。

(2) 荒天対策の実施

原則として情報を大会本部で検討し、専門委員長が指示する。

(3) 荒天対策は「行動可能な場合」と「行動不可能な場合」に分けて実施する。

①行動可能な場合は荒天によって通常の登山行動が困難な場合、規定時間、制限時間、行動形式を変更して行動する。

また、登山行動中の天候の激変や落雷等の突発事項の場合は、事前に計画した荒天対策によらない緊急避難を行う可能性もある。

②行動不可能な場合は前日までに専門委員で検討し各学校に連絡する。

3. 大会コースのルートガイド

瑞梅寺山の家を右に曲がり出発する。車道を下っていくと左が瑞梅寺ダム・右がキトク橋の丁字路になる。この区間は民家の付近を早朝に歩くので迷惑をかけないように進んで欲しい。丁字路を右へ曲がり車道を進むと左にキトク橋・正面に駐車場・右に登山口があり右の登山道を進む。キトク橋から登山道を進むとスギの植林地帯を歩く。しばらく登山道を進むと左に曲がるように木道を渡るが、日陰で濡れていることが多く、よく滑るので慎重に通過したい。さらに進んでいくと左手の沢を渡渉する地点がある。ここも慎重に渡渉し2～3分ほど登ると**広域基幹林道**に出会う。車道を横断し再び沢沿いの登山道を進んでいき3回目の沢を渡渉したところから滝の音が聞こえ始め、すぐにアンの滝に到着する。



渡渉地点は安全な場所を確認する

アンの滝を通過して登山道を進むと**アンの滝分岐**に到着し左が水無登山口、右が井原山山頂となっており、右の井原山山頂に進む。登山道をしばらく進むと第一ベンチが見えてきて、ここから左側の斜面をトラバースしながら進む九十九折の急登になる。九十九折を終えると第二ベンチがある。そのあとも尾根に出るまでは急登がつづく。尾根付近になるとクマザサが登山道付近に生い茂っている。



通行禁止となった洗い谷ルート

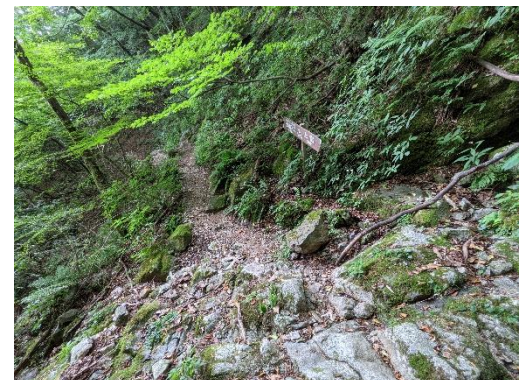
左側に**水無尾根分岐**、右側に井原山頂案内があり右側に進む。ここから山頂までは緩やかな尾根道になり、ブナやヤブツバキ、リュウブ等の自然林がみられ、また、石灰岩もみられる。脊振山脈の尾根道が近づくとコバノミツバツツジの群生もみられる。**瑞梅寺分岐**では左に井原山、右に雷山の分岐となり丁字路を左に進み**井原山**山頂に到着する。(この区間はピストンとなる)



富士山手前の巻き道

井原山山頂は360度の展望があり北側は糸島市・福岡市、南側は佐賀市・有明海の先に天気の良い日は雲仙まで見えることもある。また、山頂の周りにはヤマボウシやツゲが多くみられる。山頂からは三瀬峠・古場・雷山方面と3つのルートがあるので間違えないように雷山へと向かおう。

ここからしばらくは尾根を進むこととなる。縦走路瑞梅寺分岐を通過しコバノミツバツツジやクマザサのトンネルをくぐり抜け、ブナの自然林をみながら歩いていると右側に現在通行禁止となった洗い谷ルートの柵が現れる。そのまま進むと本富士山と書かれたピークを通過すると、途中小さなピークがあり手前に巻き道がある。どちらに進んでもよいがピークからは尾根を北へ降りるルート跡があるので間違えないように雷山へ向かう。さらに進むと**富士山**と書かれたピークに到着する。ここからはスタート地点付近である瑞梅寺ダムが見える。雷山を目指して進んでいくと右側に中腹自然歩道分岐があり、左側に古場分岐がある。そのまま尾根



上宮通過後のトラバース

を進んでいくと**雷山**に到着する。雷山も展望が開けているが特に西側の羽金（はがね）山にある標準電波送信所の電波塔がよく見える。

雷山山頂からは草原地帯を経て避難小屋へ進む道もあるが北側の上宮を目指して下山していく。上宮までの区間はブナ林やツゲなどの自然林があり、自然林の間から福岡市内が見え福岡空港も見える。上宮が近づいてきたらスギの植林の中を木の階段で降りていく。

上宮に到着したら左が雷神社、右が清賀の滝となるので右へ進む。ここからはトラバースしながら数回谷を越えなければいけない。滑落には十分注意をしてルートを踏み外さないように注意して進む。トラバースが終わると尾根を降って行き、しばらく歩いていくと清賀の滝が見えてくる。この滝の落差は15mといわれている。

清賀の滝に到着したらそのまま沢沿いを進むように降りていく。または、車道の橋を渡るとすぐに右側に沢の登山道へ合流する道があるのでそこを利用する。こちらの方が増水した時は安心である。沢沿いをそのまま歩いていくと右側に防火水槽のフェンスがありアスファルト道に合流する。このアスファルト道を右に進みしばらく歩く。右側に張り出した尾根から中腹自然歩道へ入る看板があるので見落とさずここから再び登山道に入る。この辺りもスギの植林となっており、この中の登山道を歩いていく。登りきった所で右側から縦走路からの分岐と合流、そのまま進むと車道と合流し**中腹自然歩道登山口**に到着する。ここで車道を横断してすぐ沢の横の道を歩く。草が多く分かりにくい階段になっているので踏み外さないよう慎重に進む。車道に合流したらそのまま車道を下山していく。この付近は竹林地帯になっており、沢と平行に下ると民家が見えてくる。この辺りは分かれ道が数本あるので間違えないようにゴールである**瑞梅寺山の家**を目指す。

瑞梅寺山の家はキャンプ場の方へ鋭角に右に入る。



車道を右へ曲がる



右に鋭角に登ると瑞梅寺山の家